

< 地域一体型授業づくり >

団体・学校の特徴

平成30年度、令和元年度「博物館・美術館等を活用した子どもパワーアップ事業」モデル校に指定。
「博学連携スクールカリキュラム」を作成し、博学連携事業を実践してきた。

所在地(市町村名)

桶川市

会員数又は児童生徒数

602名

活動期間

3年7か月

活動内容

総合的な学習の時間や各教科において、外部人財と連携して専門的な知識に触れ、さらに教育効果の高い授業を展開できるように取組を実践している。

特徴的な活動



博物館・美術館等を活用した子どもパワーアップ事業



博学連携スクールカリキュラム

1年生「図工」

4年生「図工」

2年生「生活」

3年生「総合」

5年生「総合」

6年生「社会」

県立近代美術館

さいたま文学館

県立歴史と民族の博物館

桶川市歴史民俗資料館

本物を知り、本物を学ぶ



博学連携を成功させるために

1. 博物館を地域人財と学校を繋ぐコーディネーター的役割として活用する。
・学校が知らない地域人財との関係の深い博物館の人脈を活用し、教育効果の高い授業を行う。
2. 教科等横断的な授業を展開する。
・地域を学びの場として、様々な教科との連携を図る。土器作り(図工)、ご飯炊き(家庭科)、紅餅作り(理科)
3. 児童と共に教師が楽しく学ぶ。
・教師も知らないからこそ、活動の幅が広がり、その答えを博物館等と連携して見つけていく。

成果

- ①桶川を自慢できるようになった児童の割合の変化
学習前 桶川を自慢できる児童の割合 27%
学習後 桶川を自慢できる児童の割合100%
- ②表現方法の質の高まり
実際に体験したからこそ、学習成果の発表も真剣になり、表現方法を考え練習を重ねた。
- ③地域人財の効果的活用
児童が本物と関わる時間を増やすことは、児童の学習意欲を高めることに繋がり、地域への関心も高まった。